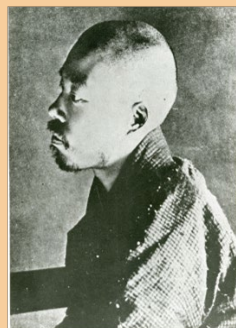


愚陀仏庵再建記念シンポジウム ＜愚陀仏庵時代＞の子規と漱石

日時 2025年**11月29日**(土)
13:30～16:30 (開場13:00～)

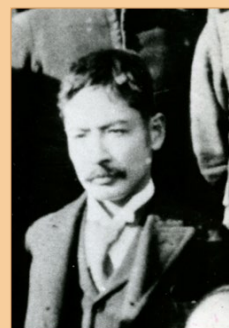
※参加加申込締切 **11月21日(金)**

会場 愛媛大学南加記念ホール
(松山市文京町3 城北キャンパス内)



正岡子規

(1900年(明治33年)頃)



夏目漱石

(1896年(明治29年)頃)

＜写真は松山市立子規記念博物館提供＞

参加 参加費無料／会場及びオンラインによる併用開催

定員 150人 ※会場は定員になり次第、受付を終了させていただきます。

主催：愛媛大学俳句・書文化研究センター

共催：松山坊っちゃん会、松山子規会

後援：愛媛県、松山市、愛媛県教育委員会、松山市教育委員会

プログラム

【開会挨拶】 杉森 正敏 (愛媛大学 理事・副学長／地域協働推進機構長)

【主旨説明】 佐藤 栄作 氏 (松山坊っちゃん会会長／愛媛大学名誉教授)

【報告1】 青木 亮人 (愛媛大学俳句・書文化研究センター／教育学部教授)

「明治28年前後の子規と俳句革新について」

【報告2】 中根 隆行 (愛媛大学俳句・書文化研究センター／法文学部教授)

「漱石と愚陀仏庵／松山という場所について」

【報告3】 今村 威 氏 (松山子規会元副会長)

「市民が参加した愚陀仏庵」

【閉会挨拶】 小助川 元太

(愛媛大学俳句・書文化研究センター長／教育学部教授)

司会：神楽岡 幼子 (愛媛大学俳句・書文化研究センター／法文学部教授)

開催趣旨

2025年は、夏目金之助（漱石）が愛媛県尋常中学に赴任して130年に当たります。漱石の着任とほぼ同時期、日清戦争の取材からの帰りの船で大咯血した記者、正岡子規は、神戸・須磨での療養の後、8月に松山へ帰郷します。すでに実家のない子規は、漱石（俳号：愚陀仏）の下宿で52日を過ごすことになります。生気を取り戻した子規は、ここで俳句入門書「俳諧大要」を書き始め、発表します。一方、松山体験がモチーフの一つとされ、松山らしき町を舞台とする漱石の小説「坊っちゃん」はなお10年半待たなければなりません。

二人にとって、日本近代文学にとって、そして松山にとって、愚陀仏庵はいかなる意味を持つのでしょうか。松山市により再建される今、あらためて考えてみたいと思います。

愛媛大学俳句・書文化研究センター長 小助川 元太



焼失前の愚陀仏庵2階
(年代不明)



復元された愚陀仏庵1階
(子規記念博物館常設展示室3階)
<写真は松山市立子規記念博物館提供>

参加申込

以下の参加申込みフォームURL、
もしくは右記の二次元コードからお申込みください。



■参加申込みフォーム：<https://forms.office.com/r/iXJEP3wXQm>

■お問い合わせ 愛媛大学地域協働支援部地域協働課

メール：bunkeicj@stu.ehime-u.ac.jp

電話：089-927-8963

※月～金（祝日を除く）9:00～17:00

※いただいた個人情報は、本シンポジウムに関する連絡のみに
使用させていただきます。

※大学構内には駐車スペースはありません。

近隣の有料駐車場をご利用いただくか、公共交通機関をご利用ください。

※オンラインの場合は、パソコン、スマートフォン、タブレットでの参加が可能です。

（※Wi-Fi環境を推奨）

※オンライン参加用URLは、登録いただいたメールアドレスに前日までにお知らせします。



会場周辺地図